

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100222		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	めだかの学校千塚公園西		
所在地	甲府市千塚3丁目9-31		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月12日 金曜日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大通りから少し入った所にあるホームの為、昼夜ともに静かな環境で過ごしやすく周りには畑や田んぼで農作業をする地域住民の姿や登下校する小学生の姿がある。近所には歩いていける距離に公園やスーパーがある為より家庭に近い支援ができる環境である。ホームの敷地内には畑や庭があり野菜作りや花の手入れ等、利用者、利用者家族、地域住民と一緒にしている。また施設の行事にはご家族様にも参加して頂き、準備から実施まで一緒に行っている。ご家族様には毎月ホームでの行事や生活の様子を「千塚ふれあいだより」として郵送している。地域との関わりは地域行事への積極的な参加、ボランティアの受け入れ、小学校、保育園との交流を定期的に行っている。利用者様が住み慣れた環境で顔なじみに囲まれる中、人生の最期を迎えるように看取り支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大通りから少し入った田畑が点在する住宅地の中にある。事業所の建物は2階建てで1階は認知症対応型デイサービスのフロアがある2階建ての2ユニット構造となっている。近くには日々の散歩コースに成っている公園や商店・小学校があり楽しく登下校する子供の姿や農作業する近隣の住民の姿も日常的に見られている。スタッフは利用者が安心して家庭的な雰囲気の中で安全に共同生活が送れる環境を提供し、笑顔で一日一日を大切に過ごしていただき「地域の一人としてここで暮らせてよかった」と言っていた様に職員一丸となって介護への理解と知識や技術を高めると共に、入居者一人ひとりの尊厳を大切に、入居者の思いに寄り添った支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活できるよう、全職員が理念を念頭におき実施につなげている。朝礼や職員会議などで職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりに全員で取り組んでいる。	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活できるよう、全職員が理念を念頭におき実施につなげている。朝礼や職員会議などで職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりに全員で取り組んでいる。	法人の理念を具現化するため「笑顔で1日1日を楽し過ごす」をスローガンに掲げ、朝礼や月1回の職員会議で周知徹底し、入居者が地域の一員であると言う考えの元、地域行事に積極的に参加し、入居者が笑顔で毎日を過ごせるよう職員一丸となって取り組み日常的な支援の中に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、回覧板や地域住民からの訪問によって行事の情報を頂き行事への積極的参加、地域ボランティアの受け入れを行い交流を図っている。地域のお店の利用など社会資源活用もしている。定期的に地域住民が庭の手入れを実施してくれる。	自治会加入し、回覧板や地域住民からの訪問によって行事の情報を頂き行事への積極的参加、地域ボランティアの受け入れを行い交流を図っている。地域のお店の利用など社会資源活用もしている。定期的に地域住民が庭の手入れを実施してくれる。	自治会に加入。コロナ禍で今までの様にボランティアや地域の方との関わりは少なくなっているが、小学校とビデオレターでの関わりや馴染みのお店との関わり、社会資源の利用は少人数対応で継続支援が出来る。また、近隣の散歩等も同様に少人数単位で対応できている。地域住民がコロナ禍でも定期的に庭の手入れを行ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への積極的参加や幼稚園・小学校の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。また運営推進会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下生活できるよう協力を依頼している。	地域行事への積極的参加や幼稚園・小学校の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。また運営推進会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下生活できるよう協力を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的に意見を言っていたるように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的に意見を言っていたるように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	運営推進会議は2か月に1回、毎回議題に沿って意見交換を行っている。コロナ禍でボランティア・家族・知人等との関わりが少なくなっている中で入居者に楽しんでもらう行事を増やしてはと委員の中から意見があり、家族の協力の元、施設内で、寿し・スイーツバイキング等を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	対応困難事例や制度、人事基準等不明な点は保険者へ連絡を取りアドバイスを頂いている。また地域包括には運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。介護相談員についても2か月に1回訪問して下っている。	対応困難事例や制度、人事基準等不明な点は保険者へ連絡を取りアドバイスを頂いている。また地域包括には運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。介護相談員についても2か月に1回訪問して下っている。	コロナ禍で電話での対応が多く成っているが、運営推進会議の報告や法則基準に対しての対応・困難事例(透折)等に対するアドバイスを受けたり情報を頂いたりしている。また、介護相談員が月1回訪問し個別に入居者から話を聴くなどしてもらいフィードバックに繋げている。市と福祉避難所の協定を結び、互いに協力し合える環境も築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束防止委員会を開催し、全職員が身体拘束について正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時閲覧などで回し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	3か月に1回身体拘束防止委員会を開催し、全職員が身体拘束について正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時閲覧などで回し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	3か月に1回の身体拘束委員会を開催し周知徹底を行っている。「身体拘束一覧表」を作成し職員に配布している。身体拘束のグレーゾーン・スピーチロックについても伝えてある。研修の中で対処法だけでなくどうしてそうするのかを考えてもらっている。職員同士で注意し合える環境であり、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回身体拘束防止委員会を開催し、利用者の尊厳を大切に、身体的虐待はもちろんのこと、言葉の暴力やネグレクト、グレーゾーンについても注意をするよう職員に促している。また虐待を行わない為のスタッフの協力、連絡体制を徹底している。	3か月に1回身体拘束防止委員会を開催し、利用者の尊厳を大切に、身体的虐待はもちろんのこと、言葉の暴力やネグレクト、グレーゾーンについても注意をするよう職員に促している。また虐待を行わない為のスタッフの協力、連絡体制を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不明な点についても必ず確認を行っている。	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不明な点についても必ず確認を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時の会話、家族とのメール、介護相談員からの情報などを利用し利用者やご家族ができる限り意見や要望などを言いやすい環境づくりを行い、要望があった際には反映できるように努力をしている。また意見箱の設置も行っている。	運営推進会議の場や面会時の会話、家族とのメール、介護相談員からの情報などを利用し利用者やご家族ができる限り意見や要望などを言いやすい環境づくりを行い、要望があった際には反映できるように努力をしている。また意見箱の設置も行っている。	玄関に意見箱を設置しているがほとんど利用されていない。コロナ禍で面会が難しい状況であり事業所と家族のメールの交換や介護相談員からの入居者の情報などから家族や入居者の意見要望を吸い上げている。入居者は家族との手紙のやり取りで字を書く機会を増やしたり、家族から外食に連れていけないので出前を依頼されたりと個々の要望に応えられる環境づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で手すりの設置や行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。年に1度個別面談の時間を設け意見等も聞いている。	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で手すりの設置や行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。年に1度個別面談の時間を設け意見等も聞いている。	職員会議・ユニット会議・各委員会・業務の中で職員の意見を聞く機会をもっている。年1回管理者との個別面談を行っている。また法人でストレスチェックを行ない法人のクリニックの先生からアドバイスをもらっている。職員から入居者の安全の為に浴室に手すりの設置とリフトの増設の要望があり設置完了済みである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者はじめ各スタッフで取り組んでいる。	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者はじめ各スタッフで取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催。事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けている。業務内のOJTを行い技術向上を支援している。外部の各研修にも参加してもらっている。	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催。事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けている。業務内のOJTを行い技術向上を支援している。外部の各研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの見学や研修の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。	他施設からの見学や研修の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい過去の習慣等の情報を頂き、個別対応している。生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい過去の習慣等の情報を頂き、個別対応している。生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き支援に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度事業所便りと近況を兼ねた直筆の手紙を郵送している。	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き支援に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度事業所便りと近況を兼ねた直筆の手紙を郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人とご家族の主訴は何かを見極め本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。また他事業所のサービスも紹介している。	サービス開始時には本人とご家族の主訴は何かを見極め本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。また他事業所のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や片付け、洗濯や掃除までできる範囲で行ってもらい、認知症があろうとも人として当たり前に共存できるように支援している。	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や片付け、洗濯や掃除までできる範囲で行ってもらい、認知症があろうとも人として当たり前に共存できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないという事を家族に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関りを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力してもらっている。	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないという事を家族に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関りを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた病院やお店の利用を家族に依頼したり、家のことが心配な方は職員と一緒に自宅の様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されないように個別で支援している。自宅へ外出し近所の方とのつながりも継続している。	以前通っていた病院やお店の利用を家族に依頼したり、家のことが心配な方は職員と一緒に自宅の様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されないように個別で支援している。自宅へ外出し近所の方とのつながりも継続している。	入所時に入所前の本人を取り巻く馴染みの人や場所の把握・日々の情報をセンター方式を使用し個々のファイルを作成し必要な支援に繋げている。要望があれば個々に自宅の様子を見に行ったり、出前を取ったり、知人と電話のやり取りを行う、食事に行く、買い物に行く等コロナ禍で工夫しながら馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事等を通じ利用者同士の会話が増える様に職員がパイプ役となり支援している。利用者が孤立しないようグループ外出等個々が楽しめる行事を企画、フロアや居室で利用者同士が会話できる環境整備を行っている。	日常生活や行事等を通じ利用者同士の会話が増える様に職員がパイプ役となり支援している。利用者が孤立しないようグループ外出等個々が楽しめる行事を企画、フロアや居室で利用者同士が会話できる環境整備を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療ニーズの高まりにて退所する場合であっても希望があれば退院後の行先を探して利用者、家族が困らないように支援を行っている。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けていることを伝え、実際に退去後も来所して下さる家族もいる。	医療ニーズの高まりにて退所する場合であっても希望があれば退院後の行先を探して利用者、家族が困らないように支援を行っている。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けていることを伝え、実際に退去後も来所して下さる家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活を送りたいか希望を聞き、またご本人から希望が聞き取れない場合はご家族から生活歴やバックグラウンドの把握を行い本人本位の考えのもと支援にあたっている。	本人がどのような生活を送りたいか希望を聞き、またご本人から希望が聞き取れない場合はご家族から生活歴やバックグラウンドの把握を行い本人本位の考えのもと支援にあたっている。	職員はセンター方式を使用し本人がどのように暮らしたいのかをくみ取る努力を行なっている。その時々表情の変化や日常生活での会話からの気づきも大切に記録し職員全体で共有している。思いや意向を表現できない入居者でも家族からバックグラウンドの把握を行ない支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や生活の中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、スタッフ間で共有できるように会議等で周知している。また、これまで利用していた事業所や担当ケアマネジャーから情報を頂く場合もある。	入所前の生活歴や生活の中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、スタッフ間で共有できるように会議等で周知している。また、これまで利用していた事業所や担当ケアマネジャーから情報を頂く場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを兼ねて家事作業は利用者と共にっており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態やできる事、できない事の把握ができ、都度職員間で情報の共有を行っている。	生活リハビリを兼ねて家事作業は利用者と共にしており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態やできる事、できない事の把握ができ、都度職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に本人・家族に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行い、また処遇会議以外でも日々気付いた事は各ユニットで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	計画作成時に本人・家族に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行い、また処遇会議以外でも日々気付いた事は各ユニットで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	入居時センター方式を活用し本人・家族からアセスメントし暫定プランを作成。家族の確認を得、日々の気づきを記録し2か月ごとにモニタリングを行ない各自の目標を確認、概ね6か月周期で本プランの見直しを行なっている。状況が変化した場合は、都度現状に則した変更プランの作成を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとっての最善の方法や介護計画の見直しに生かしている。	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとっての最善の方法や介護計画の見直しに生かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物、外食等、その時々にも生じる個別のニーズに対して都度対応している。	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物、外食等、その時々にも生じる個別のニーズに対して都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別の地域資源を把握し、入所することにより地域との関係が寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店等できる範囲で訪れたり、面会に来ていただいたりと継続できるように支援している。	個別の地域資源を把握し、入所することにより地域との関係が寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店等できる範囲で訪れたり、面会に来ていただいたりと継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え、希望があった場合は主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。主治医によっては往診にも対応してくれている。	入所時にご本人、家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え、希望があった場合は主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。主治医によっては往診にも対応してくれている。	入居時、本人・家族の希望を聞いている。これまでのかかりつけ医を希望されている方が12名。基本、家族対応ではあるが現状施設職員がほぼ対応している。家族への報告はメールや電話で行い情報の共有を図っている。歯科医の訪問は週1回あり希望者が受診している。その他、専門医の受診は都度職員が対応、看取りは、往診医が訪問し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には利用者のちょっとした変化に気付けるように日常の関わりの中から利用者を観察するように指導している。気付いた点は随時管理者、看護師に報告、相談をし必要な医療が適切に受けられるように支援している。	職員には利用者のちょっとした変化に気付けるように日常の関わりの中から利用者を観察するように指導している。気付いた点は随時管理者、看護師に報告、相談をし必要な医療が適切に受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は情報提供を病院へ行い、入院中は病院・家族との連携を取りあい、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また退院時には医療面だけではなく必要に応じてOTやPT等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。	利用者が入院した際は情報提供を病院へ行い、入院中は病院・家族との連携を取りあい、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また退院時には医療面だけではなく必要に応じてOTやPT等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族や本人の意向を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携を取っていることを説明し、広い選択肢の中で方向性を決めて頂けるようにしている。看取りについても対応しており、利用者の為に家族、医療従事者、施設が三位一体となりその人らしい最期を迎えて頂けるように支援を行っている。	入所時に家族や本人の意向を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携を取っていることを説明し、広い選択肢の中で方向性を決めて頂けるようにしている。看取りについても対応しており、利用者の為に家族、医療従事者、施設が三位一体となりその人らしい最期を迎えて頂けるように支援を行っている。	入居時、本人・家族の選択肢としてどういった最期を迎えたいかを聞いている。マニュアル作成・看取りケアの研修も行っていること等グループホームでの現状の看取りについて説明している。医療関係者との連携体制もつかりできている。終末期は定期的な医師の往診が行われ、その人らしい最期を迎えられるように支援している。看取り後も家族・職員の精神面に配慮した支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、救急法と年に2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対処方法を徹底している。事故を未然に防ぐ為にヒヤリハット・事故報告書の記入を行い委員会話し合い、周知徹底している。	緊急時の対応、救急法と年に2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対処方法を徹底している。事故を未然に防ぐ為にヒヤリハット・事故報告書の記入を行い委員会話し合い、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、夜間、地震、火災、水害の訓練を行っている。また、地域の方にも災害時の協力要請をしており、地域の避難訓練にも参加している。防災についての研修や水消火器を使った訓練も行っている。	定期的な避難訓練を実施し、夜間、地震、火災、水害の訓練を行っている。また、地域の方にも災害時の協力要請をしており、地域の避難訓練にも参加している。防災についての研修や水消火器を使った訓練も行っている。	年3回、火災・地震等夜間を想定した訓練・水害時1階から2階へ避難する訓練を定期的に行っている。訓練には地域住民の参加も得ており、よりスムーズな協力体制ができる訓練に繋げている。地域の防災訓練にも毎回出席し体験訓練をしている。防災用備品・ヘルメット等の準備もしてある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であるという事を念頭に置き、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務中でのOJTや研修、身体拘束廃止委員会や会議でも声掛けや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意しあえる環境を作っている。	利用者が人生の先輩であるという事を念頭に置き、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務中でのOJTや研修、身体拘束廃止委員会や会議でも声掛けや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意しあえる環境を作っている。	業務中でのOJTや研修内容は法人として「福祉の基本」の研修がある。外国人の職員採用に伴い新人職員にプライバシーに配慮した声掛け・接し方等を重点にマンツーマンで指導している。また、日々の業務の中で職員同士が注意し合える環境で有り、お互いに研鑽し合える体制が整っている。個人情報に関するものは厳重に保管している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りに努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声掛けの方法を工夫している。生活の中の選択場面は自己決定ができるように「してあげる介護」から「待つ介護」を心がけている。	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りに努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声掛けの方法を工夫している。生活の中の選択場面は自己決定ができるように「してあげる介護」から「待つ介護」を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に。その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護するにあたり、まずその人の事をよく知り、よく見ることを心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら行先や内容を検討、実施している。	介護するにあたり、まずその人の事をよく知り、よく見ることを心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら行先や内容を検討、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら行事や外出の際は衣類の選択やお化粧品等させて頂いている。あくまでも本人自身のおしゃれができるように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で自身で行ってもらっている。	本人の希望を聞きながら行事や外出の際は衣類の選択やお化粧品等させて頂いている。あくまでも本人自身のおしゃれができるように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で自身で行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は一緒にやっている。ほうとうや太巻き作り、団子作りやおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつ作りも一緒に手作りしている。自由メニューやお好み外食等、希望を聞きながら実施している。	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は一緒にやっている。ほうとうや太巻き作り、団子作りやおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつ作りも一緒に手作りしている。自由メニューやお好み外食等、希望を聞きながら実施している。	職員が献立を立て、週1回自由メニュー等の希望を聞きながら法人の中で職員が調理している。食材は業者が搬入、足りない物は職員が買い出しを行なっている。コロナ禍で外食の機会が少なくなったことで施設内で楽しめるスイーツバイキング・寿しバイキング・家族の意向でウナギをとる等、準備から片付けまで入居者と一緒に行うなど、楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行い、バランスよく栄養が摂れるように努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。	個々の状態に合わせて食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行い、バランスよく栄養が摂れるように努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず実施し、歯科医師の訪問診療も週に一度実施している。義歯の不具合や口腔内の問題がある場合は歯科医師にすぐ相談できる環境下にある。また口腔衛生管理委員会の中で問題点や歯科医師からの指示を共有している。	食後の口腔ケアは必ず実施し、歯科医師の訪問診療も週に一度実施している。義歯の不具合や口腔内の問題がある場合は歯科医師にすぐ相談できる環境下にある。また口腔衛生管理委員会の中で問題点や歯科医師からの指示を共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に声掛け、誘導を行っている。オムツやパットの使用も見直しを行いその人にとっての自立が目指せるように支援している。	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に声掛け、誘導を行っている。オムツやパットの使用も見直しを行いその人にとっての自立が目指せるように支援している。	排泄チェック表を元に一人ひとりのパターンに合った声掛け誘導を行ない自立に向けた支援を心掛けている。オムツ使用はなく、3名の方が布パンツ・日中失禁が少なく夜間のみリハビリパンツを使用する方がおられ、リハビリパンツ・パットの使用量が減少している。ヨーグルトを食べていただくことで下痢が少なくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関してはチェックシートを用いて個別チェックし、その方の排便リズムの把握やトイレで排泄ができるように支援を行っている。できる範囲で下剤に頼るのではなく、水分摂取や運動、乳製品の活用等の対応を行っている。	排便に関してはチェックシートを用いて個別チェックし、その方の排便リズムの把握やトイレで排泄ができるように支援を行っている。できる範囲で下剤に頼るのではなく、水分摂取や運動、乳製品の活用等の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施し、できる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方など個々の希望に応じた個別の支援を実施している。週に2.3回は入浴して頂けるように実施している。	入浴は毎日実施し、できる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方など個々の希望に応じた個別の支援を実施している。週に2.3回は入浴して頂けるように実施している。	毎日入浴ができるように準備し、一人ひとりの希望に沿った支援を心掛けている。声掛けし入浴を嫌がる入居者に対し強要せず人を変え・曜日を変える等の対応を行い週2~3回入浴している。浴槽設置式リフト・シャワーキャリーが備えてあり安全・安心の支援が行われている。看取りの方でも手浴・足浴・清拭・ドライシャンプー等の支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校 千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠に繋がられるように努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。居室の空間もご本人が安心できる工夫を行っている。	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠に繋がられるように努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。居室の空間もご本人が安心できる工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服薬による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記載し職員全体で情報共有し把握に努めている。	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服薬による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記載し職員全体で情報共有し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノや料理、畑仕事や編み物等その人にとって楽しみとなっていることが日常生活の中で自然にできるように支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノや料理、畑仕事や編み物等その人にとって楽しみとなっていることが日常生活の中で自然にできるように支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域や勤めていた会社等、家族の協力を頂き支援を行っている。ご家族様との外出も希望される場合は柔軟に対応している。	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域や勤めていた会社等、家族の協力を頂き支援を行っている。ご家族様との外出も希望される場合は柔軟に対応している。	散歩で近くの公園に行く・希望の買い物に行く・畑に行く等少人数対応で戸外に出る機会をもうけている。玄関先にはイスとテーブルが置いてあり、状況に応じて昼食を食べる、たくあんを漬ける等の作業を行う、ほうとう作りをする、日光浴をする等入居者のその時々状況に応じ、コロナ禍でも戸外で楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。自己管理ができない方は施設においてお小遣い管理を行っている。	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。自己管理ができない方は施設においてお小遣い管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては利用者の家族や友人に対し希望があった場合支援をしている。手紙も月に一度本人に聞きながら家族へ手紙を送っている。代筆する方もいるが直筆で書ける方は自身で書いてもらっている。	電話に関しては利用者の家族や友人に対し希望があった場合支援をしている。手紙も月に一度本人に聞きながら家族へ手紙を送っている。代筆する方もいるが直筆で書ける方は自身で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や季節の花等を飾り、季節を感じて居心地が良く、快適に生活ができるように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じてもらえるように野菜や花を植え、窓際に椅子を置きいつでも屋外が見れるように配慮している。	利用者の作品や季節の花等を飾り、季節を感じて居心地が良く、快適に生活ができるように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じてもらえるように野菜や花を植え、窓際に椅子を置きいつでも屋外が見れるように配慮している。	併設の認知症対応型デイサービスと入居者が自由に行き来でき、目の当たるフロアには一人ひとりの時間を作れる配慮や仲良し同士がおしゃべりを楽しむことができるように、また、ゆつくりと庭を眺める等の配慮から、椅子が沢山設置してある。利用者の手作りの作品もフロア・廊下・玄関に飾ってあるのも目を引く、玄関先の椅子とテーブルも日光浴やイベントができる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。1、2階のフロアをうまく使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間と話ができる家具の配置を行い空間作りに努めている。	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。1、2階のフロアをうまく使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間と話ができる家具の配置を行い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参して頂けるようにお願いし、布団や枕、筆筒や仏壇等を持ち込まれている方もいる。また家族の写真を部屋に貼り、その人にとっての居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参して頂けるようにお願いし、布団や枕、筆筒や仏壇等を持ち込まれている方もいる。また家族の写真を部屋に貼り、その人にとっての居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室は木製のベッド・クローラー・吊戸棚・蛍光灯・カーテンが備え付けである。仏壇・写真・人形・家具など今まで使用していた物をできるだけ持って来てもらうように家族に働きかけている。それぞれの居室の窓からは庭が眺められ、日当たりも良く、入居者がその人らしく落ち着いて過ごせる居心地の良いそれぞれの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内での家事や軽作業はできる範囲で利用者と一緒にいき、ADLだけに目を向けるのではなく安全を確認した上でその人なりの自立を目指して支援を行っている。	事業所内での家事や軽作業はできる範囲で利用者と一緒にいき、ADLだけに目を向けるのではなく安全を確認した上でその人なりの自立を目指して支援を行っている。		